

(社)日本印刷産業機械工業会の創立 70 周年記念表彰で、経済産業大臣表彰に小森善治氏、石田明氏、宮腰巖氏の3氏、経済産業省製造産業局長表彰に篠原幹夫氏、古門慶造氏、大床正晃氏、和田隆雅氏の4氏が受賞する。

このほか会長表彰の経営功労者表彰 25 人、優良従業員表彰 67 人を表彰する。

## 経済産業大臣表彰

### 小森 善治 氏

社団法人日本印刷産業機械工業会会長。

(株)小森コーポレーション代表取締役社長。

平成 5 年 5 月に社団法人日本印刷産業機械工業会副会長に就任し、同会のグローバル化に尽力した結果、国際的な工業会の連合体である EUMAPRINT の合意の下に、印刷機材展示会 IGAS を世界 4 大国際展示会の 1 つに位置づけることに成功。主催者代表として平成 15 年に第 1 回国際展 IGAS2003 を成功の裡に開催した。

副会長として、その卓越した先見性・指導性を発揮して、会長補佐ならびに印刷機械産業を指導するとともに、印刷機械産業の生産形態を分析し、生産におけるロス・無駄を徹底的に省くため、人・工程・機械・材料などの統合情報管理システムの必要性や、マルチメディア時代の印刷機械産業における顧客、異業種などの関連分野における解析、研究を取り上げるなど、業界に多くの影響を与えた。

さらに、印刷技術分野の国際標準化に対する検討組織として、平成元年から同会に設置された ISO/TC130 国内委員会の国際標準化への取り組みを、平成 12 年 5 月の会長就任以来、積極的に推進し、国際標準化機構におけるわが国の発言力強化に向けた組織・活動強化を提唱、国際会議などへのエキスパート派遣により、国際規格への反映に尽力している。平成 15 年に京都で ISO/TC130 国際会議をホスト国として主催した。

国際感覚に裏打ちされた行動力・安全・環境における先見性、業界の基盤整備など、業界活性化に長年にわたり貢献している。

平成 9 年春、藍綬褒章を受ける。

昭和 14 年 6 月 27 日生まれ。67 歳。

---

### 石田 明 氏

社団法人日本印刷産業機械工業会副会長。前会長。

大日本スクリーン製造(株)代表取締役会長。

平成 2 年 5 月に社団法人日本印刷産業機械工業会の副会長に就任以来、16 年間にわたり、常任理事、副会長、会長などの要職を歴任し、同会の発展に尽力した。

特に平成 5 年 5 月から会長として印刷機械、製版機械、製本機械、紙工機械など、多岐にわた

る印刷産業機械業界の統率者として、基盤強化や 21 世紀を見据えた高度情報化社会における業界の発展の為、積極的に事業を推進した。

また、印刷業務の効率化とコスト低減などの推進として、印刷産業機械業界におけるデジタル対応を積極的に推進、平成 6 年度から 11 年度にかけて、印刷産業機械の情報管理システムや高度化、情報ネットワークを利用した技術の調査研究、開発などを進める調査研究委員会を設置した。

平成 10 年には、今後の印刷産業界のビジョンを提示すべく、学識者や業界技術者などの専門家を集め、印刷産業機械将来動向研究会を立ち上げ、自らが委員長を務めながら指導力を発揮し、高度情報化の中で業界が取り組むべき技術開発や市場展望における施策などを取りまとめ、業界の指針を示した。

さらに平成 11 年 5 月に、印刷総合機材展 IGAS の国際化を実現したほか、平成 18 年 5 月に再度副会長に就任し、その経験を生かした幅広い視野で業界活動に貢献している。

平成 17 年春、藍綬褒章を受ける。

昭和 17 年 7 月 23 日生まれ。64 歳。

---

## 宮腰 巖 氏

社団法人日本印刷産業機械工業会副会長。

(株)ミヤコシ代表取締役社長。

昭和 55 年 5 月に社団法人日本印刷産業機械工業会の理事に就任以来、業界の推進する事業に積極的に協力し、同会の活性化に尽力。平成 7 年 11 月常任理事、平成 16 年 5 月に副会長に選任され、同会の中心的役割を務めている。

特にフォーム印刷機でのミシン刃やピンなどの取替え部品の規格化を推進し、全日本印刷製本機械工業会規格を制定、平成 10 年に工業会規格として使用者と製造者両者の利便性に貢献した。

また、デジタル技術における社会構造の変化に伴う印刷物の需要変動を見通し、新しい技術の積極的な採り入れを提唱、平成 13 年に印刷物制作における情報データベース有効利用に関する調査研究、平成 15 年に次世代印刷システムのインテリジェントワークフローに関する調査研究および印刷システムの高機能・効率化に関する調査研究、平成 16 年に印刷産業機械の新素材対応に関する調査研究などで指導的立場として貢献した。

また、フォーム印刷機の需要減少を見通し、最新のインキジェット技術などデジタル印刷技術を印刷産業機械に取り込み、新たな市場を生成するなど、印刷産業機械業界の活性化に尽力した。

安全や環境においても、平成 17 年に印刷産業機械の安全設計・技術に関する調査研究、平成 18 年に印刷産業機械の騒音および放出物等に関する環境適合設計指針調査研究で、副会長として指導するなど、幅広い見識と指導力で業界の繁栄に貢献している。

平成 17 年 4 月、千葉県科学技術功労者を受ける。

昭和 18 年 3 月 8 日生まれ。64 歳。

---

## 経済産業省製造産業局長表彰

### 篠原 幹夫 氏

社団法人日本印刷産業機械工業会副会長。  
(株)篠原鐵鋼所代表取締役社長。

平成 4 年 5 月に社団法人日本印刷産業機械工業会理事に就任以来、同会の活動に積極的に参加し、活性化に努めた。

とくに平成 9 年から本格的活動を始めた ISO/TC130 国内委員会の JWG5 で中心的役割を果たし、印刷機械の安全性に関する ISO 規格の作成では国際会議などに積極的に社員を派遣するなどで貢献。平成 18 年 5 月から副会長に就任し、その指導力で業界全体の振興・発展に貢献している。

昭和 15 年 6 月 15 日生まれ。66 歳。

---

### 古門 慶造 氏

社団法人日本印刷産業機械工業会理事。  
(株)モトヤ代表取締役社長。

平成元年に理事に就任以来、献身的に職務を果たし、昭和 63 年と平成元年に行われた「書体(タイプフェイス)の法的保護に関する調査研究」事業などに文字組版の会員の中心として積極的に参加し、成果を上げた。

また、平成 5 年以降のデジタル技術の導入で大きな転機を迎えた文字組版、製版分野で、会員の中心としてユーザー団体と協力して技術指導に努めた。

昭和 22 年 2 月 27 日生まれ。59 歳。

---

### 大床 正晃 氏

社団法人日本印刷産業機械工業会理事。  
(株)大床製作所代表取締役社長。

平成 2 年に社団法人日本印刷産業機械工業会理事に就任以来、集版・製版分野の会員の中心として同会の活動を積極的に支援し、活性化に努めた。

とくにデジタル技術の導入で、転機を迎えた集版・製版分野で、版の大型化に伴い、さらに重要になった版下チェックに対して、デジタル技術を用いた検版システムの開発を行い普及に努めている。

昭和 19 年 8 月 29 日生まれ。62 歳。

---

**和田 隆雅 氏**

社団法人日本印刷産業機械工業会理事。

富士機械工業(株)代表取締役社長。

平成元年に社団法人日本印刷産業機械工業会理事に就任以来、グラビア印刷、特殊印刷分野の会員の中心として積極的に活動に参加し、グラビア印刷インキによるVOCからの環境保護に関する活動で、グラビア印刷業会のユーザー団体と連携を取り、積極的に対策の検討・実施を進めるとともに、より有効な解決のための有識者による講習会の開催、官公庁などとの打ち合わせで中心的な役割を果たしている。

昭和19年7月11日生まれ。62歳。

(2007年5月23日 日本印刷新聞掲載)

2007年5月24日 印刷新報掲載)